

8. The National Integrated Project for Prospective Observation of Non-communicable Disease and its Trends in the Aged 2010 (NIPPON DATA2010):

目的・方法・対象者特性

研究分担者 門田 文 (滋賀医科大学アジア疫学研究センター 特任准教授)
研究分担者 奥田奈賀子 (人間総合科学大学人間科学部健康栄養学科 教授)
研究分担者 大久保孝義 (帝京大学医学部衛生学公衆衛生学講座 教授)
研究分担者 岡村 智教 (慶應義塾大学医学部衛生学公衆衛生学 教授)
研究分担者 西 信雄 (医薬基盤・健康・栄養研究所国際栄養情報センター センター長)
研究分担者 上島 弘嗣 (滋賀医科大学アジア疫学研究センター 特任教授)
研究分担者 岡山 明 (生活習慣病予防研究センター 代表)
研究代表者 三浦 克之 (滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 教授)

【背景および目的】

近年、わが国における食習慣などの生活習慣、社会経済情勢、医療の状況は大きく変化しており、循環器疾患の要因や循環器疾患発症状況も大きく変化していくと考えられる。よって、循環器疾患に関連すると予想される要因や循環器疾患の発症をモニターする新たな国民代表集団コホートを開始する。

【方法】

全国から無作為抽出された 300 地区で実施された 2010 年の国民健康・栄養調査の 20 歳以上の参加者に NIPPON DATA2010 研究主旨を説明し、参加同意を得た。国民健康栄養調査で実施された調査項目に加えて、独自の生活習慣に関する自記式質問票（一部ききとり）、安静時心電図、尿検査、血液検査項目の追加を行った。栄養摂取および社会的要因については、同年の国民健康栄養調査および国民生活基礎調査の結果を突合した。以後、糖尿病・心疾患・脳卒中の発症について、追跡調査を開始する。

【結果】 合計2898人（推定同意率74%）から本調査への参加同意が得られた。2891人が国民健康栄養調査と、2807人が国民生活基礎調査と突合できた。

【結論】

平成22年国民健康・栄養調査の20歳以上の参加者を対象に、循環器疾患の要因や循環器疾患の発症をモニターする新たな国民代表集団コホートを開始できた。

Kadota A et al. The National Integrated Project for Prospective Observation of Non-communicable Disease and its Trends in the Aged 2010 (NIPPON DATA2010): Objectives, Design, and Population Characteristics. *J Epidemiol* 2018; 28(Suppl 3): S2-9.